



“幻の島原木綿” —藍を紡ぐ—

はりを織るありし日の平田タケノさん

2025年9月20日（土）－10月19日（日）

場所：島原城観光復興記念館

開館時間：10時－17時

入場料：無料 ※ただし駐車料代がかかります

主催：ながさきピース文化祭2025島原市実行委員会
（島原市教育委員会生涯学習課内）



島原木綿は、江戸時代以前の慶長の頃の文書に記録があるなど、400年を超える歴史を有しており、恵まれた気候と自然風土のもと、農家の副業として発展しました。明治期には、地域の主要な産業として奨励され、明治36年大阪で開催された第5回内国勧業博覧会で縞織りの明快さや質の丈夫さなどの評価を高めました。大正から昭和初期頃に最盛期を迎え、島原市内の三会から有明町大三東・湯江地域を中心に、農婦が主となり手機（てばた）織りに従事しました。

大正期に機械織りが導入されたことで、次第に手機織りの家内工業から工場生産へと産業的な発展を遂げ、九州圏内から関西方面等まで販路を拡大して島原木綿の名声を高めました。しかし、世界大戦下の経済統制や戦後の経済・技術の発展と生活の劇的な変化により、産業だけではなく手仕事を支えた島原木綿の生産は衰退し、老婦らの趣味的な自家用の手機織りに留まり、まさに「幻の島原木綿」となりました。

昭和62年有明町制施行30周年を記念して町立歴史民俗記念館が開設された頃、島原木綿の再評価の気運が高まり、家庭に残った手機織や諸道具、衣類や織物の裂地、織見本帳などが多数収蔵されました。まもなく、島原木綿の復活と技術の伝承に向けて木綿織りのグループが立ち上がり、のちに島原木綿保存会が結成され、縞織木綿の復興に向けての活動が継承されてきました。

本展では、歴史的に島原の産業を担い長崎県の主要な染織工芸であった島原木綿を再評価して、ここに紹介したいと思います。島原木綿は、全国の木綿織りと同様に大正期末から昭和前半期に民衆の生活具としての役割りを衰退させてしまい、活気のあった美しく丈夫な衣料は消失しまったようです。わずかに貴重な民俗文化財として残された縞織りや緋織りの着物や裃、多数の裂地や織りの見本帳などをご覧いただき、併せて島原木綿保存会の活動を紹介し会員の縞織反物作品を展示いたします。



緋の裃



金縦縞の長着

島原木綿保存会による はた織実演



時を経て暮らしに
いきづく島原木綿

開催日：9/20(土) 10/4(土) 10/11(土) 10/18(土)

実演時間：14:00～16:00

※10/4(土)のみ14:30～16:30

オープニング 展示解説

日時 | 9月20日(土) 10:00～

解説員 文化財保護審議会委員
諸山 正則氏

島原城観光復興記念館(島原市城内一丁目1182)

アクセス 島原駅から徒歩約10分

問合せ 島原市教育委員会生涯学習課 ☎0957-68-5473

島原城公式ホームページ

<https://shimabarajou.com/>

